

# 袋井市総合計画座談会 意見等整理表

資料 4

No.	発言者	政策	取組	内容	意見に対する考え方・対応	後期基本計画への対応	担当
1	土岐さん	-	全体	○新しい事に取り組む姿勢が良い。時代の変化に対応していくためもっとスピードを出していく必要があるかもしれない。ICTの活用と併せて「袋井って面白い」というまちになっていけば良い。 ○市内でも人口構造の違いなど地域格差があり、それをどうしていくか。広域連携を考えていく必要がある。	○ICTなどの新技術を積極的に活用し、様々な価値創出に取り組んでいく。 ○1自治体でできることは限られており、遠州地域などのスケールメリットを活かした取組は重要。広域会議の場などで取組を提案していく。	○計画全体（時代の潮流）の中で整理していく。	企画政策課
2	鈴木美智子さん 永井さん	-	多様性	○多様な人が、ありのままの姿で受け入れられて暮らしていける社会が必要であり、障がいの有無や性別、国籍も超えてお互いに関わって活動していくことが大切。行政にもそれが活かされるとよい。 ○個性を受け入れていくためには、偏見なく接していくことが必要。	○多様性を尊重・受容できることは極めて重要であるとともに、多様な個性はまちづくりへの大切な力となり得る。	○計画全体（時代の潮流）の中で整理していく。	企画政策課
3	大場さん	-	シティプロモーション	○袋井市はクラウンメロン、遠州三山などポテンシャルは高いが、全国で知名度が低い。シティプロモーションなどに取組んで知名度を上げることが、単価の向上などブランド力を高めることにつながるのではないかと。	○クラウンメロンや遠州三山の知名度を上げることにより、市のイメージ向上や市民のまちへの誇りや愛着心の醸成も期待でき、これらは、まちづくりにも大きく影響する。メディアや年間100万人を超えるエコパ来訪者に向けたプロモーションをはじめ、市民や企業との連携、ふるさと納税の返礼品、観光イベントなど、あらゆる手段により市の魅力を発信していく。	○計画全体（分野横断の考え方）の中で整理していく。	企画政策課
4	鈴木ひろ江さん	政策1	子育て	○子ども同士、母親同士で関わることで多様な個性があることを実感できる。子どもだけでなく、親の交流や教育の場ともなるような施設や機会が増えるとよいのではないかと。 ○安心して育児ができるための子育て広場のような施設やサークルが必要。	○地域全体で子育てを支援する基盤形成を図るため、子育て支援拠点施設を設置しており、また、地域でも子育てを支援できるように、子育て広場を実施している。今後においても、乳幼児とその保護者に交流の場を提供するとともに子育てに関する情報提供や相談事業を実施していく。	○政策1取組1「みんなで支え合う子育て環境の充実」に記載したとおり、地域で支え合う取組として、安心して育児ができる環境整備を行うなど、子育て広場事業をはじめ、地域で子育ての支援ができる環境を整えていく。	すこやか子ども課
5	石川さん	政策1	教育	○（幼小中一貫教育を踏まえ）幼、小、中が一体になっていて、その中で様々な話ができるところが袋井市の特徴。保護者が気持ちよく、落ち着いて、安心安全を心に持ちながら生活できる事が強み。それをPRしていくと良い。	○本市の幼小中一貫教育は、3歳から中学校卒業までの12年間を通して、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて、自立した人間として主体的に判断する「自立力」と、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する「社会力」を兼ね備えた15歳を育成することを目指している。家庭、地域、学校、行政が一体となって取り組むことができるよう、今後もPRに努めていく。	○政策1取組2の目指す姿に「幼小中一貫教育を通して「自立力」と「社会力」を兼ね備えた、心ゆたかでたくましい若者を育てます。」に記載したとおり、取組の基本方針や主な事業についても幼小中一貫教育の視点で整理し、取組を進めていく。	学校教育課
6	丸山さん	政策1	教育	○昔をを知り、今の便利さを実感してもらうことが大切。便利だけでなく、自分で考え、学び、力をつけて、新しいことをやる大人になって欲しい。	○昔の人々の生活の様子については、小学3、4年生で、郷土資料館等を訪れて、学習しており、昔の道具を見たり、道具に触れたりすることで、ボタン1つで何でもできてしまう今の時代の便利さに気が付く子どももいる。しかしながら、今と比べると不便さがある昔の道具だが、使い手のことをよく考えた工夫がされている話を聞くと、すごいと感じる子どももあり、このような考える力の大切さは、便利な今の時代を生きる児童にとって重要な力であると考え、本市では思考ツールを活用して「思考スキル」を身に付ける授業を、どの学校でも行っている。	○政策1取組2の基本方針2「確かな学力を育む教育の推進」に記載してあるとおり、ICT機器を効果的に活用した協働的学習（思考ツールを活用した学習）や個別最適化された学習を推進し、子どもたちの「考える力」を幼小中一貫教育で育成していく。	学校教育課
7	渡邊さん	政策1	教育	○子ども達が興味を持つことが学びの第一歩で、親も同じことに興味を持ち、一緒に参加することが必要。そうしないと子どもの成長はない。	○親が興味を持つためには、園や学校でどのような活動を行っているのかを、知ることが大事であると考え。そのため、園や学校では、保護者向けの説明会や園開放・学校公開日を設定して、家庭との連携を図っている。また、小中学校では全家庭に配付した「家庭学習のすすめリーフレット」で、親子で一緒に体験したり調べたりすることの大切さを呼び掛けている。	○政策1取組2の基本方針2「確かな学力を育む教育の推進」の施策の一つとして、「家庭学習のすすめリーフレット」を作成し、親にも家庭学習の内容や大切さについて周知を図っていく。	学校教育課

袋井市総合計画座談会 意見等整理表

資料 4

No.	発言者	政策	取組	内容	意見に対する考え方・対応	後期基本計画への対応	担当
8	塩崎さん	政策 1	生涯学習	<p>○持続可能なまちであるためには、教育に力を入れていかないと若い人は集まってこないし、新しいモノを生み出していけない。他市、他県から袋井市いいよねと言われるような尖った教育をぜひやってほしい。</p> <p>○学校社会に馴染めない引きこもりの子ども達も才能をいっぱい持っており、どうしたら輝けるかを考えながら教育に力を入れていくと、良いまちになるのでは。人口9万人の規模感を生かした教育に力を入れてやってほしい。</p>	<p>○今年度の特色ある取組では、小学校3・4・5年生対象の漢字検定・算数検定の導入や、教科カリキュラムに基づいた思考ツールを活用した授業実践、タブレット端末を1280台導入するなど、近隣の市町ではまだ実施されていない事業を取り入れてきた。これらの取組によって子どもたちに確かな学力を育み、袋井で学んでよかったと思えるようにしたいと考えている。</p> <p>○令和2年度末現在、小中学校合わせて100人程度の不登校児童生徒がおり、その内の何名かの児童生徒は適応指導教室「ひまわり」に通って、仲間とともに学習したり、地域の方々と交流したりして、学校と同じように可能性を伸ばす支援を受けている。このような一人ひとりのニーズに応じた教育は、不登校児童生徒だけでなく、外国人や特別な支援を必要とする児童生徒に対しても続けていく。</p>	<p>○政策1取組2の基本方針2「確かな学力を育む教育の推進」の施策として、令和2年度以降も検定や思考ツールの活用、タブレット端末の導入や活用を進めていく。また、基本方針4「子ども一人ひとりを大切にした支援の充実」に記載してあるとおり、育ちの森等と連携して、子ども一人ひとりのニーズに応じた切れ目のない支援の充実を図っていく。</p>	学校教育課
9	岡本さん	政策 1	教育	<p>○人間社会を円満に生きる上での学びが一番。生きていくためには、職にむけての学びがあるが、むしろ、色々な人の生き方、歴史や祖先を大切に等、基本的な生き方を伝えていくのも一つ。学びと勉強は違う。価値観を共有できる努力とコミュニケーション能力、それを合わせて学びと捉えたい。勉強の意味を、先生が示し、促すことが大事で、その代わり得意なことを持つことが大切。</p> <p>○子ども達には成長する過程で、自分の特化したものを自覚し、自信に変えられるような人間観を持って欲しい。世界に通じる学力や知識が身につけさせるため、科学振興を経験者が語るような場を設け、子ども達が知識や経験を吸収してもらえればいい。</p>	<p>○勉強の意味や大切さを子どもたち自身が理解することは、大変重要であると考えている。授業の中で今学習している内容が世の中のどのような場面で使われているのかを示したり、実際に使われているものを課題として取り扱ったりしながら、勉強することの大切さを伝えていきたい。</p> <p>○科学振興を経験者が語るような場の設定について、例えば理科の天体の授業では、地域で天体観測を行っている方をゲストティーチャーとして授業に招聘するという方法も考えられる。その他に、プログラミングや科学実験の学習でも専門的な学習をされてきた方を招くことができそうであり、まずは、学校・学園内にはどのような地域人材がいるのかを把握し、教育活動への参画を依頼していきたい。</p>	<p>○政策1取組2の基本方針1の「よりよく生きる力の育成」に記載してあるとおり、地域社会の関わりの中で子どもたちの教育を推進していく。また、基本方針2「確かな学力を育む教育の推進」に記載してあるとおり、ICT機器を効果的に活用した協働的学習（思考ツールを活用した学習）や個別最適化された学習を推進し、子どもたちの「考える力」を幼小中一貫教育で育成していく。</p>	学校教育課
10	鈴木ひろ江さん	政策 2	健康づくり 地域包括ケア	<p>○健康で暮らすためには運動や食事、禁煙に加えて社会参加（ソーシャルキャピタル）が重要。人間関係が多い人ほど健康だというデータもある。公会堂を利用して運動や文化的な習い事をするのは認知症予防においても大切であり、そのためにも自治会ごとの健康づくり推進員は、健康に見識が深い方を選定するとよいのでは。推進員の意識の差により健康教室の参加人数が違う。地区の課題でもあり、行政の課題でもある。人材育成も含め、行政も積極的に関わるとよい。</p>	<p>○健康づくり推進員は現在、自治会へ選定を任せているため、健康に見識が深い方の選定を求めるのは難しい面があるが、働きかけはしていきたい。選出された健康づくり推進員が、これをきっかけに、自身の健康意識の向上につながり、それが地域全体の健康づくり活動の向上につながるよう促していく。</p>	<p>○政策2取組1の基本方針1「地域における健康づくりの推進」に記載してあるとおり、「地域が主体となる」に健康づくり推進員が含まれており、今後も積極的に関わっていく。</p>	健康づくり課
11	鈴木ひろ江さん	政策 6	健康づくり	<p>○社会とのつながりが大きいほど、多様性や助け合いの精神が生まれてくる。市民に対しての心の部分でのサポートやソーシャルキャピタルの仕組みづくりを市が中心となって全体でやっていただければと思う。</p>	<p>○ソーシャルキャピタルの醸成により、人と人とのつながりが活発になると、住民の地域活動への参加も活発になり、健康にもよい影響を与えることから、つながりを大切にした支援をしていく。</p>	<p>○政策2取組1「生涯しあわせに暮らす健康づくりの推進」の現状と課題及び基本方針1「地域における健康づくりの推進」に、ソーシャルキャピタルをわかりやすく明文化した文言を追加。</p>	健康づくり課
12	原野さん	政策 2	地域包括ケア	<p>○袋井市ではでん伝体操をやっており、介護予防には有効だと思う。そこで集まる方達が、ゴミ捨てや庭の剪定等の仕事を地域で助け合っているのが理想的だが無償では仕組みづくりも含めて現実的には難しい。7月から浅羽地区で有償ボランティアによる生活支援が始まると聞いた。そのような取組みが地域全体に広がれば良いと思う。</p>	<p>○助け合いは、隣近所による助け合いから地域などの組織による助け合いや有償で行うもの、無償で行うものなど、その取組方法は、様々な形がある。浅羽笠原地区の取組は、本市における新たな生活支援活動であることから、他地域にも支え合い活動の取組への参考となるよう、活動事例のひとつとして紹介し、地域の取組につながるよう支援してまいりたい。</p>	<p>○政策2取組2の基本方針2「支え合い活動といきいき活躍する社会づくりの推進」に記載してあるとおり、地域による互いに支え合う取組への支援として、浅羽笠原地区の取組も含め、様々な活動事例を紹介し、地域による支え合い活動の立ち上げを支援してまいりたい。</p>	地域包括ケア推進課

# 袋井市総合計画座談会 意見等整理表

資料 4

No.	発言者	政策	取組	内容	意見に対する考え方・対応	後期基本計画への対応	担当
13	原野さん	政策 2	地域包括ケア	○免許を返納した方などは外出自体が減るので、デザインの良い（男心をくすぐる）シニアカー等があれば、高齢者も外出するようになるのではないかと考える。	○高齢者が、閉じこもらず、地域と関わりを持った生活を送るためには、自ら外出しなくなるような取組が必要であり、まずは、地域での交流の場や介護予防に取組む通いの場などを増やしていくことが重要だと考える。	○政策 2 取組 2 の基本方針 2 「支え合い活動といきいき活躍する社会づくりの推進」に記載してあるとおり、まずは交流の場や通いの場などの取組を推進し、高齢者の生きがいや社会参加につなげてまいりたい。なお、デザインの良いものを取り入れるなど、「楽しい」「嬉しい」という個人の価値感を踏まえた取組は有効であると考えられることから、今後の施策推進の中で考え方を取り入れていく。	地域包括ケア推進課
14	高橋さん	政策 2	障がい者福祉	○高齢化や引きこもり、外国人、子育て等の問題は障がい者にも起こる。老障介護、8050問題などでは、横の繋がりが重要になる。行政だけでなく地域の中で上手く対応していくことが必要。	○障がい者の8050問題については、行政だけの解決は困難であり、関係機関や地域の障害福祉サービス事業所等との連携が不可欠と考えている。こうしたメンバーで構成される中遠地域自立支援協議会において、情報を共有し、共同生活援助施設における支援など対応を検討してまいりたい。	○政策 2 取組 4 の基本方針 2 「社会福祉施設の整備支援」に記載してあるとおり、住み慣れた地域でいきいきと生活できるよう、社会福祉法人等と連携し、共同生活援助等の施設整備支援等に取り組んでまいりたい。	しあわせ推進課
15	高橋さん	政策 2	障がい者福祉	○障がい者支援では、その人を知り、一緒に活動することが大切。お互いを知って一緒に活動することで信頼関係も生まれる。障がい者は決して支援を受けるだけのだけでなく、中には積極的に何かをしてあげたいと考える人もいます。一部の特性を知ってもらえばそれ以外は健常者と対等に活動できる。まずは障がい者のことを良く知ってもらうことが大事ではないかと考える。	○障がい者は、様々な特性を持っており、周囲がそれを知り、支えることで健常者とともに地域や社会に関わることができる可能性がある。市は様々な機会を活用し、広くノーマライゼーションの理念を啓発することで、障がいのある人もない人も、個人の尊厳を重んじ平等に生活できるよう努めてまいりたい。	○政策 2 取組 4 「自分らしく暮らせる障がい者支援の推進」基本方針 3 「障がい者への理解と地域の交流の支援」に記載してあるとおり、障がい者が個々の特性を生かして地域で行われる様々な行事や取組に参加できるように、地域の民生児童委員に対する研修等を通じて障がい者に対する理解を促進してまいりたい。	しあわせ推進課
16	高橋さん	政策 2	障がい者福祉	○福祉ボランティアや活動に参加する人の数は10年前と比べてあまり増えていないように感じる。ただし、高校生や大学生など学生のボランティア等に対する関心は高いと考えられるが、それをつなぐ人材が不足している。	○福祉に関心の高い学生等のボランティアについては、新たなボランティア活動の担い手として大変貴重な存在であると考えられる。ボランティア推進協議会の事務局である袋井市社会福祉協議会と連携し、ボランティア活動のための相談に応じていただくなど、人材不足の解消に繋げてまいりたい。	○政策 2 取組 4 「自分らしく暮らせる障がい者支援の推進」基本方針 3 「障がい者への理解と地域の交流の支援」に記載してあるとおり、障がい者が地域で安心・安全に生活できるよう支援体制を整える中で、新たなボランティアに活躍いただけるような環境づくりに努めてまいりたい。	しあわせ推進課
17	大場さん	政策 4	観光	○（イベントなどコトづくりについて）袋井市の良い所は瞬発力。新しいことに対して、すぐに動いて、形にしていくのは良い所だが、取組が一過性で終わってしまうなど、持久力に課題がある。手法は色々変わってもよいので、楽しめるように形を変えて継続していくことが、これからの袋井に必要。	○多くの人に魅力を感じてもらえるよう、常に時代やニーズにあったものを意識しながら取り組んでいる。今後も手法や表現方法は変化させながらも、目的を意識したうえで、誘客促進に向け継続的な事業の推進を図る。	○政策 4 取組 2 の「袋井ブランドの活用」に記載してあるとおり、遠州三山をはじめとした魅力ある観光資源を活用するとともに多分野との融合を図り、新たな価値の創出につなげることで、継続性のある「コトづくり」に努める。	産業政策課
18	塩崎さん	政策 4	商業	○袋井市の良くない所は、商工会議所が2つあり分断している点。もっと連携して欲しい。	○現在、袋井市には、袋井商工会議所と浅羽町商工会があるが、それぞれ根拠法令が異なり、合併前の袋井市、旧浅羽町をエリアとして活動している。それぞれのエリアに経営指導員がいるため、より事業者寄りになった支援ができ、事業者にとって活用しやすい環境であると認識している。現状では、個店セミナーやスタンプラリーなど商工会議所、商工会と連携できる事業は連携して取り組んでいる。	○政策 4 取組 1 「産業の新たな展開の推進」、や取組 4 「魅力的な商業の振興」の中にも位置付けている様々な事業を実施する中で、市と商工団体、商工団体同士の連携をさらに深めていく。	産業政策課
19	山本さん	政策 4	商業	○市内にも素敵な自営業（個人）がいることを広く知ってもらえれば。様々なイベントの開催を通じ、新たな出会いや体験が生まれ、新しい発見や成長等やまちの価値創出につながるのではないかと考える。（市内外で活躍する様々なスキルをもった人の力を活かすことがまちの活力を高めることに大切ではないかという趣旨）	○現在、袋井市では、個店の魅力発信と認知度の向上を目的とした「個店セミナー（まちゼミ）」と「個店めぐりスタンプラリー」を実施している。今年度は「個店セミナー（まちゼミ）」に小学生を対象とした「こどもまちゼミ」を新たに創設し、市内の店舗やスタッフの魅力発信を強化することでまちの価値創出につなげる。	○政策 4 取組 4 「魅力的な商業の振興」の中の取組基本方針 2 「魅力ある個店・商店街づくりの推進」に記載してあるとおり、現在、実施している個店セミナーやスタンプラリーなどの事業を含め、魅力ある個店づくりに努めていく。	産業政策課

袋井市総合計画座談会 意見等整理表

資料4

No.	発言者	政策	取組	内容	意見に対する考え方・対応	後期基本計画への対応	担当
20	村松さん	政策4	農業	○お茶畑の風景は素晴らしいが荒廃地が増えていると残念。豊かな農地は、市の財産であり、農家だけでなく、企業や地域、行政などが協力して守っていく仕組みづくりが欠かせないのではないか。	○手入れが行き届いた美しい茶畑の景観は、茶産地の特徴的な「農の風景」であり、本市の景観形成の大きな要素となっている。○農業者の高齢化や後継者不足による茶生産者の減少、近年の厳しい茶況を受け、耕作放棄地となる茶園の増加が危惧されている。まずは、茶園を良好に維持管理するため、地域の担い手農業者への茶園集積を図るとともに、地域住民やNPO法人、企業ボランティア等による保全活動を支援する。	○政策4取組3の農地の基本方針2「農地の基盤整備と多面的機能の維持」の中で、農地の持つ優れた多面的機能の一つの例として、「景観形成機能」を追記。健全な保全管理に向け、地権者や農業者の啓発を行うとともに、農業委員会が中心となり、農業者や農業法人などと連携して農地として再生し有効活用を図る。 また、地域ごとに将来の担い手と農地の集積・集約等を検討する「人・農地プラン」や、農地中間管理事業の活用などにより適切な農地保全を図っていく。	農政課
21	石川さん	政策6	コミュニティ	○地域ごとに人口構造や地勢など状況が違うので、実状を正しく把握することが大事。例えば、どうしたら子育てなどを含めて安心して暮らせるか、働く世代の女性を対象として丁寧なアンケートを取り、地域づくりに反映していく。それを踏まえて住民が自らの地域をどうしたいか考えることがとても大切。	○公民館のコミュニティセンターへの移行により、概ね小学校のエリアで地区まちづくり協議会による特色ある地域づくり活動が始まっている。小学校区単位に組織されている地域団体（区長会、各種協議会、小学校PTA）があり、様々な団体が一体となって地域づくりに取り組める素地があると考えられ、その中で、地域の課題や実情を把握するため、地区まちづくり協議会が中心となり、中学生以上を対象とした住民アンケートの実施や、ワークショップなどにより、地域の将来を考える取り組みが始まっている。	○政策6取組1の基本方針2「多様な担い手による地域づくり活動の充実・支援」や「協働の考え方や役割」に記載してあり、地区まちづくり協議会が主体となったワークショップの開催や全住民を対象としたアンケート調査の支援、各種団体等の活動に対する支援を行うとともに、先進的、先駆的な取り組みの情報の提供を図っていく。	協働まちづくり課
22	渡邊さん	政策6	コミュニティ	○地域の自治会活動などは、少子高齢化が原因で、昔と同じような役割が同じようにできない状態にある。やれる範囲でやるのが持続するコツであるし、目的が同じであれば以前と同じやり方をする必要はないのではないか。	○役員の任期が1年であることや、サラリーマン化が進んだ世代が地域の役員を担うようになってきているが、地域活動の中心となる土曜日、日曜日がお休みではない住民も増えてきており、これまでとは同じ活動を継続することが難しくなっている。このため、自治会役員などの負担軽減や地域の実情に合った組織体制・活動内容の見直しなども協議、検討して行く必要があると認識している。	○政策6取組1の基本方針2「多様な担い手による地域づくり活動の充実・支援」に、参加・参画の方法などを再構築し、個々の状況に応じた多様な関わり方ができる環境を整えていくことを明記。 ○コミュニティ再構築について「分野横断で取り組む考え方」で整理していく。	協働まちづくり課
23	諸井さん	政策6	コミュニティ協働	○組織を10年維持する考えを外した方が良い。3年で終了しても良い。リーダーも同じ人でなくて良いし、活動も変わって良い。スタイルが変わっていくことを許容する社会・まちになることが必要であり、新陳代謝を繰り返す、当たり前に変化していくことがこれからのコミュニティのスタイルではないか。	○活動の拠点として、概ね小学校単位に設置している公民館をコミュニティセンターに移行し、各コミュニティセンターを活動拠点として、地区まちづくり協議会を設立していただき、それぞれの地域の実情にあった地域づくりに取り組んでいただいている。この中で、意欲を持った新たな担い手に参加していただくことや、市民活動団体との連携、これまでの活動の見直しなど時代に合った取組を進める必要がある。	○政策6取組1の基本方針2「多様な担い手による地域づくり活動の充実・支援」地域づくり活動への次代の担い手確保のため、新たな人づくりに取り組むとともに、参加・参画の方法などを再構築し、個々の状況に応じた多様な関わり方ができる環境を整えることを明記。 ○3「市民活動の促進と交流・連携の機会の創出」においても、新たな人づくりや組織づくりに取り組むことを明記。 ○コミュニティ再構築について「分野横断で取り組む考え方」で整理していく。	協働まちづくり課

袋井市総合計画座談会 意見等整理表

資料 4

No.	発言者	政策	取組	内容	意見に対する考え方・対応	後期基本計画への対応	担当
24	塩崎さん 山本さん	政策 6	協働	○若い世代と定年退職された方々との出会いなど多世代と一緒に活動できる場を増やせるとよい。出会い、話し、お互いが理解する事で、次につながる。月に1回、日曜日の昼間にまちづくりに対してみんなで語ってなど、つながる場が出来るとよい。 ○市民活動は、人が集まり組織化することで、やりづらさが出てくる。一般の人でも、何かに特化した知識や技術を持つ方がいる。本職でない方のサークルがフランクにあると良い。負担もある子育て中のお母さんでも気軽に会が開けて、活動しやすい緩やかなつながりの場があると良いのではないかな。	○地域の皆さんが、学習や趣味を通じて仲間と集うことができる場所として、コミュニティセンターが活用できる。コミュニティセンターをより一層、交流、にぎわいづくりの場として推進していくとともに、既存の形によらない緩やかなつながりのできる場を創っていくことも必要と認識している。	○地域版ホームページの充実をはじめ、LINE公式アカウントの普及を図り、各コミュニティセンターから魅力ある活動情報を発信することで、すべてのコミュニティセンターがより使いやすくなり、交流、にぎわいづくりの場として充実していくことを目指す。 また、既存の形によらない緩やかなつながりのできる場づくりについては、自治体のプラットフォーム化などの視点で「分野横断で取り組む考え方」で整理していく。	協働まちづくり課
25	永井さん	政策 6	協働	○ボランティア（市民活動）の場は数多くあるが実際に活動している人は一部の人に限られる。ボランティアをやっても返ってくるものが現状では何もない。ボランティアをすることに對しての付加価値を付けることが大事。自分のできることを活かしていけるような場を作れるとよい。市民が活動に向けて一歩を踏み出すためのハードルを下げることでできれば良い。	○ボランティア（市民活動）については、興味がある方が参加につながっていない方へのきっかけづくりが必要であると考えられる。ボランティアへの参加は、誰かの役に立つだけではなく、人との出会いや新しい経験を通じた成長にもつながることから、実際に活動しようと思う方に対し、「どこで」、「どれ位の時間をかけて」、「具体的にどんな作業を」、「どんな人と一緒に」するのかを分かりやすく伝えることが大切であると考えられる。	○政策6取組1の基本方針2「多様な担い手による地域づくり活動の充実、支援」地域づくり活動への次代の担い手確保のため、新たな人づくりに取り組むとともに、参加・参画の方法などを再構築し、個々の状況に応じた多様な関わり方ができる環境を整えることを明記。 ○3「市民活動の促進と交流・連携の機会の創出」においても、新たな人づくりや組織づくりに取り組むことを明記。	協働まちづくり課
26	村松さん	政策 6	生涯学習	○田んぼで水遊びや田植え、収穫など、地域資源を活かした遊びや体験の思い出は一生忘れないと思う。親子の絆も生まれるため、参加型の記憶に残る体験型の教育・人づくりが良いのではないかな。	○青少年が心身ともに健全に成長し、社会の一員として自立・活躍できるよう家庭や地域の教育力を高めることが重要。このため、どろんこ教室等の地域の青少年健全育成団体や少年教室体験活動を充実していく。	○施策6取組2「教養豊かな人づくり」の基本方針1「社会全体が連携した社会に貢献する人づくりの推進」に記載したとおり、多様化する子ども・若者を取り巻く課題や自立に向けて取り組む地域の活動を支援していく。	生涯学習課
27	諸井さん	政策 6	生涯学習	○自分の職業以外で、自分でやれることを複数提供することができる人を育てていくことが大切。年を取るほど、楽しいことが無くなる状況を無くせると良い。 ○年配の人は昔できなかったこと（絵を描きたかった、現代美術をやりたい、英語を話したかった等）などの実現や学び直しをしても良い。それを実現するサポートがあると良いのでは。	○社会の多様化や高度化に伴い、市民一人ひとりが生涯を通じて学びによる自己実現を図り、地域社会の中で、あらゆる分野で活躍できる環境を整えることが大切です。 ・また、コミュニティセンターや大学等の教養講座など、市民の学び直しの場が様々ありますことから、より多くの市民に活用していただけるよう、情報提供の仕方を工夫したい。	○施策6取組2の基本方針2「市民の学び合い・地域づくりへの支援」に記載してあるとおり、コミュニティセンターや教育文化施設、団体等の活動を通し、市民が学び合い交流する機会の提供と併せて、その成果が地域づくりに活かされる環境を整えていく。	生涯学習課
28	丸山さん	政策 6	生涯学習	○教育委員会等で、リーダーの後継者不足、継承の問題がある。若者が大学を出て帰ってこない場合がよくある。豊富な知識を持つ人材、引退したがスキルを持つ人材等を、より分かりやすく、参考になるようにして活かされると良い（例えばスマホで検索したら見られる）。	○現在、教育・福祉・文化・環境・健康など分野ごとに活躍している方々を「人材リスト」としてまとめ、コミュニティセンターの講座等で活用していただいている。市ホームページからも閲覧できるが、検索の仕方やすさなどは、ご意見をいただきながら今後改善していきたい。	○施策6、取組2」の基本方針2「市民の学び合い・地域づくりへの支援」に記載してあるとおり、社会の多様化や高度化に伴い、市民一人ひとりが、生涯を通じて学びによる自己実現が図られるよう、人材の把握と提供など、あらゆる分野で活躍できる環境を整えていく。	生涯学習課
29	鈴木美智子さん	政策 6	多文化共生	○地域とつながることを求める外国人も多いと感じる。日本人、外国人がお互いの言語も含めて学び合い相談をしやすい環境をつくるのが重要になる。 ○外国人に日本の基準を押し付けるのは酷。お互いに意見をすり合わせ、過ごしやすい環境をつくるのが大事。 ○日本人も多様性を受け入れる必要がある。日本人にとって当たり前といった考えがあることで外国人が疎外感を感じている。あらゆる側面を受け入れて寛容的に地域と関わり合えると、地域が活性化されるのではないかな。	○多文化共生を進めていく上で、異なる文化や価値観を理解し、認め合うことが重要となる。 その上で、信頼関係を深めながら、お互いの違いを受け入れ、ともに変化していくことが必要と考える。	政策6取組3の基本方針2「国際交流・多文化共生の推進」に記載してあるとおり、まずは、外国人や外国文化と触れ合う様々な機会を創出していくことで、相互理解を促進していく。	企画政策課

袋井市総合計画座談会 意見等整理表

資料 4

No.	発言者	政策	取組	内容	意見に対する考え方・対応	後期基本計画への対応	担当
30	原野さん	政策 6	人権 (LGBT)	<p>○LGBTについての施策が無い。性の指向を指す言葉で個性として尊重されるもの。袋井市では、LGBTについても隠すことなく生活できるようなまちになれば良い。LGBTのことに理解が深まるとともに、パートナーシップ制度を袋井市でも採用してもらえるとよい。</p>	<p>○令和3年度から令和7年度までを計画年度とする第2次人権啓発推進計画において、LGBT等性的少数者への理解を深めるための取組について十分協議していく。</p> <p>なお、袋井市では毎年、人権問題について考え、行動する大切さを学ぶ機会とする「人権文化創造講演会」を開催しており平成28年度には、自身が性同一性障害であることを公表している杉山文野（すぎやまふみの）さんを講師にお招きし、「辛（つら）さが2倍なら楽しさも2倍～セクシュアルマイノリティの子どもたち～」という演題で性の多様性に関連する講演を行った。</p>	<p>政策6取組3「共生社会の確立」に性的指向・性自認（SOGI）やLGBTについて追記。LGBT等性的少数者の方々を含めた全ての人々の人権が尊重されることは、成熟社会において当然のことであり、誰もが安心して生活し、活躍できる社会の実現に向けて、人権教育・啓発等の取組を進めていく。</p>	しあわせ推進課